

2026 年度版 ICI 研究会員
募集要項

ICI Research Practitioner
Application Guidelines



実践と理論を往復し、
ともに探究し、ともに未来をつくる

ICI実践研究員 募集開始

— 2026年度 —

キャリア支援・対人支援・組織支援・成人発達・AI活用など、
現場の問いを持ち寄り、学び・対話・実践・発信を通じて、
支援と学びの未来をともに探究していきませんか。

- 対話と研究会
- 実践・考察
メモの共有
- オンライン
コミュニティ
- 研究発表・
実践報告
- 発信・教材・
企画への参画

2026 年 7 月 1 日
インテグラルキャリア研究所
〔1.0.0 版〕

ICI 実践研究員 募集要項	2
1. 募集名称.....	2
ICI 実践研究員 募集.....	2
2. 募集趣旨.....	2
3. ICI 実践研究員とは.....	2
■ ICI が重視するのは、肩書きや実績だけではなく、次のような実践です。.....	2
4. 募集対象.....	2
■ 次のような関心や姿勢を持つ方を対象とします。.....	2
5. ICI 実践研究員に期待する基本姿勢.....	3
■ ICI 実践研究員には、以下の姿勢を期待します。.....	3
6. 主な研究・実践領域.....	3
■ ICI 実践研究員は、以下のようなテーマを中心に活動します。.....	3
7. 活動内容.....	3
■ 基本活動：関心・経験・参加区分に応じて、以下の活動への参加を期待します。.....	3
■ 発展活動：希望や適性に応じて、以下の活動に参加できます。.....	4
8. 参加区分.....	4
(Principal Consultant).....	4
(Senior Practitioner).....	4
(Career Practitioner).....	5
(Associate Practitioner).....	5
(フェロー).....	6
■ 参加区分の考え方.....	6
■ 参加費.....	7
■ 区分と参加費の考え方.....	7
■ フェローの費用.....	7
9. 募集人数.....	7
10. 応募条件.....	8
■ この制度が合う方.....	8
■ この制度が合わない可能性のある方.....	8
11. 応募方法.....	9
■ 応募時課題.....	9
■ 参加区分の決定.....	9
■ 選考方法.....	9
12. 参加までの流れ.....	10
13. 活動期間.....	10
14. 更新.....	10
15. 退会・区分変更.....	10
16. 守秘義務・倫理的配慮.....	10
17. コミュニティ参加におけるお願い.....	11
18. 禁止事項.....	11
19. ICI 名称・肩書きの使用について.....	11
20. 成果物・発信について.....	11
21. よくある質問.....	12
Q1. 実践経験が少なくても応募できますか。.....	12
Q2. 資格がないと応募できませんか。.....	12
Q3. 参加費は区分によって変わりますか。.....	12
Q4. フェローと実践研究員の違いは何ですか。.....	12
Q5. 忙しくて毎月参加できるかわかりません。.....	12
Q6. 研究テーマがまだ明確ではありません。.....	12
Q7. ICI の肩書きを外部で使えますか。.....	12
22. 応募にあたってのメッセージ.....	12
23. お問い合わせ.....	13

ICI 実践研究員 募集要項

2026 年 7 月版

1. 募集名称

ICI 実践研究員 募集

英語表記：ICI Practitioner / ICI Research Practitioner

2. 募集趣旨

インテグラルキャリア研究所（ICI）では、キャリア支援・対人支援・組織支援・成人発達・AI 活用等に関する実践知を、理論と実践の往復を通じて深めていくため、ICI 実践研究員を募集します。

ICI 実践研究員は、講義を受けるだけの参加者ではなく、自らの現場や関心から問いを持ち寄り、対話し、記録し、試行錯誤しながら、これからの支援と学びの形とともに探究する仲間です。

ここに形成されるコミュニティは、完成された知識を受け取るための授業ではなく、現場から生まれる問いを丁寧に扱い、実践を言語化し、必要に応じて社会にひらいていく実践を行い、受け身で学ぶだけではなく、自ら問いを立て、実践し、記録し、対話し、形にしていく人の参加を歓迎します。

3. ICI 実践研究員とは

ICI 実践研究員とは、キャリア支援・対人支援・組織支援・教育・人材育成・地域活動・AI 活用などに関する問いを持ち、実践と対話を通じて知見を育てていくメンバーです。

研究員という名称を用いていますが、大学や研究機関に所属していることや、学術論文の執筆経験があることを必須とするものではありません。

■ ICI が重視するのは、肩書きや実績だけではなく、次のような実践です。

- ・ 自分の現場や経験から問いを見出すこと
- ・ 学んだことを実践や活動に結びつけること
- ・ 実践の中で起きたことを記録し、振り返ること
- ・ 他者の問いや実践を尊重し、対話に参加すること
- ・ 気づきや知見を、必要に応じて記事・レポート・教材等の形にしていくこと

ICI 実践研究員は、知識を受け取る人ではなく、未完成の問いを持ち寄り、実践知とともに育てる人です。

4. 募集対象

■ 次のような関心や姿勢を持つ方を対象とします。

- 1) キャリア支援、対人支援、組織支援、教育、人材育成、地域活動等に関心がある方
- 2) 自分の現場や経験から生まれた問いを深めたい方
- 3) 成人発達、インテグラル理論、キャリア形成、対話、AI 活用等に関心がある方

- 4) 実践を記録し、言語化し、他者と共有することに意欲のある方
 - 5) 受け身の学習ではなく、自ら試し、考え、形にする活動に参加したい方
 - 6) ICI の理念と対話文化を尊重し、ともに学び合う姿勢を持つ方
 - 7) 支援者として、または支援に関心を持つ者として、自らの在り方を継続的に省察したい方
- 専門資格の有無だけで判断するのではなく、問いを持ち、誠実に探究しようとする姿勢を重視します。

5. ICI 実践研究員に期待する基本姿勢

■ ICI 実践研究員には、以下の姿勢を期待します。

- 1) 自ら問いを立てること
与えられた正解を待つのではなく、自分の現場・経験・関心から問いを見出すことを大切にします。
- 2) 実践と省察を往復すること
学んだことを現場や活動に持ち帰り、試し、振り返り、再び考えることを重視します。
- 3) 記録し、言語化すること
気づき、違和感、実践事例、読書メモ、考察メモなどを記録し、言葉にしていくことを求めます。
- 4) 対話に参加すること
他者の問いや実践を尊重し、建設的な対話を通じて相互に学び合う姿勢を大切にします。
- 5) 知見をひらくこと
必要に応じて、記事、レポート、教材、研究ノート、発表等の形で、実践知の共有に協力することを期待します。

6. 主な研究・実践領域

■ ICI 実践研究員は、以下のようなテーマを中心に活動します。

- ①キャリア支援と成人発達 ②インテグラルキャリアの理論と実践 ③AI時代のキャリア支援・対人支援 ④面談記録・実践記録の活用 ⑤スーパーヴィジョン、メタスーパーヴィジョン ⑥支援者自身の成長と省察 ⑦若者支援・矯正領域におけるキャリア対話 ⑧組織開発、人材育成、対話の場づくり ⑨学習コミュニティの形成 ⑩キャリアコンサルタントの実践知の記録化 ⑪ICI Insights / Concept Atlas 等への知見蓄積 ⑫AIと人間の協働による支援・学習・発信の再設計

※上記以外でも、ICI の理念と接続するテーマであれば、個別に相談のうえ探究対象とすることができます。

7. 活動内容

■ 基本活動：関心・経験・参加区分に応じて、以下の活動への参加を期待します。

- 1) 月1回程度の研究会、対話会、オンラインミーティングへの参加
- 2) 自身の研究テーマ・実践テーマの設定
- 3) 実践メモ、考察メモ、読書メモ等の作成
- 4) Den (Discord) 等のオンラインコミュニティでの問いや気づきの共有

- 5) ICI 内での研究発表、実践報告、意見交換
- 6) ICI の活動方針や対話文化への理解

■ 発展活動：希望や適性に依じて、以下の活動に参加できます。

- ・ ICI Insights 等への記事・コラム作成
- ・ Concept Atlas 等への概念整理・知見蓄積
- ・ 研修・教材・ワークショップの企画協力
- ・ 実践事例の整理、モデルケース化
- ・ スーパーヴィジョン、メタスーパーヴィジョンへの参加・補助
- ・ ICI 関連プロジェクトへの参画
- ・ 外部向け発信、研究発表、イベント企画
- ・ 後進メンバーの育成・支援

8. 参加区分

ICI では、関わり方、実践経験、責任範囲、活動内容に応じて、以下の参加区分を設けます。

〔Principal Consultant〕

ICI が何を大切にし、どのような意味を社会に提示していくのかを統合的に捉え、研究・実践・発信・育成の全体を方向づけます。

※ ICI 全体の思想・設計・最終責任を担う上位区分です。

主な役割：

ICI の基本思想の形成、研究領域の設計、SV / MSV の枠組みづくり、概念創出、最終的な品質責任です。現時点では、ICI の創設者・代表的立場にある者が担う、唯一無二の区分として位置づけます。

- ・ ICI 全体の思想・理念・方向性の設計
- ・ 研究・実践・発信の統合
- ・ SV / MSV の設計と最終責任
- ・ ICI 独自概念の創出
- ・ 重要プロジェクトの判断と責任
- ・ ICI の「意味」を担うこと
- ・ Senior Practitioner 以下の活動全体を方向づけること

〔Senior Practitioner〕

キャリア支援・対人支援・組織支援等において、安定した実践力を有するだけでなく、他者の実践を支え、問いを深め、後進の育成に関わることが期待されます。特に、スーパーヴィジョン、メタスーパーヴィジョン、事例検討、寄稿、発信、研究会運営等において、ICI の実践知を支える存在です。

※ 高度な実践、育成、発信を行える ICI の中核を担う高度実践者の区分です。

主な役割：

- ・ 高度な対人支援・キャリア支援の実践

- ・スーパーヴィジョン、メタスーパーヴィジョンへの関与
- ・研究会・事例検討・対話会での中核的役割
- ・ICI Insights 等への寄稿・発信
- ・後進育成、助言、メンタリング
- ・ICI の実践知の整理と共有
- ・Career Practitioner、Associate Practitioner への支援
- ・Principal Consultant の思想を現場実践へ橋渡しすること

想定される人物像：

- ・一人で安定した支援ができるだけでなく、他者の実践を支えることができる
- ・事例や実践を概念化し、言語化する力がある
- ・ICI の理念や対話文化を深く理解している
- ・寄稿・発信・後進育成に関心と責任を持てる
- ・ICI の核となる層として、場づくりに関与できる

(Career Practitioner)

一人で安定した支援を行うことができ、基本的な面談・キャリアコンサルティング・対話支援等を遂行できる実践者を想定します。ICI の年会費を納め、継続的に活動へ参加しているメンバーを中心に位置づけます。また、原則として、ICI の雑談会・勉強会・コミュニティ活動等に2年以上継続して参加し、ICI の文化や対話姿勢を理解していることを重視します。

※ ICI において実践の主体者であり現場実践の主力となる区分です。

主な役割：

- ・安定したキャリア支援・対人支援の実践
- ・研究会・対話会・雑談会等への継続参加
- ・自身の実践記録・考察メモの作成
- ・ICI の活動やコミュニティ運営への協力
- ・必要に応じた記事・実践報告・事例整理
- ・Associate Practitioner へのゆるやかな支援
- ・ICI の現場実践を支えること

想定される人物像：

- ・基本的な面談や支援を一人で安定して行える
- ・支援実践に関する継続的な学習と省察を行っている
- ・ICI の場に継続的に関わってきた経験がある
- ・受け身の参加ではなく、実践者として活動する意思がある
- ・ICI の年会費を納め、活動を支える意識がある

(Associate Practitioner)

キャリア支援・対人支援・組織支援等に関心を持ち、今後、実践者として成長していくことを目指す人を対象とします。面談補助、観察、逐語分析、記録作成、研究会参加、コミュニティ活動への

参加などを通じて、実践への理解を深めていきます。

※ ICI の活動に関わりながら参加者から実践者へ成長していく育成層です。

主な役割：

- ・ 研究会・対話会・コミュニティ活動への参加
- ・ 面談・事例検討・逐語分析等の観察と学習
- ・ 実践メモ・読書メモ・気づきの記録
- ・ ICI の活動補助
- ・ Career Practitioner 以上の実践者から学ぶこと
- ・ 将来的に実践者として活動するための準備
- ・ 「参加者」から「実践者」への移行

想定される人物像：

- ・ まだ実践経験は十分でなくても、主体的に学びたい意思がある
- ・ 自分の問いや関心を言語化しようとする姿勢がある
- ・ 観察、記録、逐語分析、対話を通じて学ぶことに関心がある
- ・ ICI のコミュニティ活動に参加し、場をともにつくる意思がある
- ・ 将来的に Career Practitioner 以上を目指す可能性がある

(フェロー)

フェローは、研究員制度の正式な参加区分ではなく、研究員制度に正式参加する前の接点層・関心層として位置づけられます。ICI の理念や活動に触れながら、必要に応じて公開イベント、講座、説明会、コミュニティ活動等へ参加することができます。研究員として継続的に活動する場合は、Associate Practitioner 以上への応募・参加が必要です。

※ ICI の活動や発信に関心を持ち、ICI のメルマガを購読する関心層の区分です。

主な関わり方：

- ・ 無料メルマガの購読
- ・ ICI の公開情報・記事・案内の受け取り
- ・ 公開イベント・説明会等への参加
- ・ ICI の理念や活動への理解
- ・ 将来的な Associate Practitioner への応募検討

■ 参加区分の考え方

ICI の参加区分は、単なる上下関係ではありません。それぞれの区分は、関わり方、責任範囲、実践経験、アウトプットの度合いに応じた役割の違いです。

特に、ICI 実践研究員としての正式な活動は、Associate Practitioner 以上を基本とします。

フェローは ICI との接点層であり、無料メルマガを通じて情報を受け取る関心層です。一方、Associate Practitioner 以上は、自ら問いを持ち、実践や記録、対話に参加する層として位置づけられます。ICI が求めているのは、受け身で講義を受けるだけの参加者ではなく、問いを持ち、実践し、記録し、必要に応じて発信していく仲間です。

■ 参加費

ICI 実践研究員制度では、Associate Practitioner 以上の参加区分について、共通の年会費を設定します。

- ・年会費： 年額 30,000 円（税込）
- ・対象となる区分： Associate Practitioner、Career Practitioner、Senior Practitioner、Principal Consultant

※ 参加費は、区分によって差を設けません。

※ 各区分の違いは、参加費の違いではなく、活動内容、実践経験、責任範囲、ICI への関与の深さによって分類されます。

- ・参加費に含まれるもの

- 1) 年会費には、原則として以下の内容が含まれます。
- 2) ICI 実践研究員としての登録
- 3) 研究会・対話会・雑談会等への参加
- 4) オンラインコミュニティへの参加
- 5) ICI 内での実践メモ・考察メモ等の共有
- 6) ICI の研究・実践活動への参画機会
- 7) ICI からの研究員向け案内・情報共有

※ ただし、個別の有料講座、特別研修、外部講師を招いた企画、個別スーパーヴィジョン、個別コンサルティング等については、別途費用が発生する場合があります。

■ 区分と参加費の考え方

ICI における参加区分は、金額による上下関係ではありません。すべての実践研究員が同じ年会費で参加し、それぞれの経験・関心・実践力に応じて、異なる役割を担います。Associate Practitioner は、実践を学びながら活動に関わる育成層です。Career Practitioner は、一人で安定した支援を行い、ICI の現場実践を支える主力層です。Senior Practitioner は、高度な実践、スーパーヴィジョン、発信、後進育成を担う中核層です。Principal Consultant は、ICI 全体の思想・設計・統合・最終責任を担う区分です。このように、区分は「支払う金額」ではなく、「どのような活動を担うか」によって位置づけられます。

■ フェローの費用

フェローは、無料メルマガ購読者として、ICI の発信や活動案内に触れていただく関心層です。フェローには年会費は発生しません。ただし、フェローは研究員制度の正式な参加区分ではありません。

ICI 実践研究員として継続的に活動する場合は、Associate Practitioner 以上への参加が必要です。

9. 募集人数

初期段階では、少人数での運用を予定しており、ICI の対話文化や実践研究の質を大切にするため、人数を急拡大するのではなく、まずは理念や活動趣旨に合う方との出会いを重視します。

募集人数の目安：

- 1) Associate Practitioner：若干名
- 2) Career Practitioner：現時点では新規募集なし
- 3) Senior Practitioner：現時点では新規募集なし
- 4) Principal Consultant：現時点では新規募集なし
- 5) フェロー：随時受付

10. 応募条件

ICI 実践研究員への応募には、以下の条件を満たしていることを求めます。

- 1) ICI の理念と活動趣旨に賛同していること
- 2) 探究したい問い、または深めたい実践テーマがあること
- 3) 月 1 回程度の研究会・対話会等に参加する意思があること
- 4) 3 か月に 1 回以上、実践メモ・考察メモ・小レポート等を提出する意思があること
- 5) 他者の実践や問いを尊重し、安全で建設的な対話に参加できること
- 6) 守秘義務、個人情報保護、倫理的配慮を遵守できること
- 7) 年会費 30,000 円を納める意思があること
- 8) ICI の場を単に消費するのではなく、ともにつくる意識を持てること

■ この制度が合う方

次のような方には、ICI 実践研究員制度が合う可能性があります。

- ・ 自分の実践を言語化したい方
- ・ 現場で感じている違和感を、問いとして深めたい方
- ・ 学びを自分の活動や仕事に結びつけたい方
- ・ まだ明確な答えはないが、探究したいテーマがある方
- ・ 仲間とともに新しい支援や学習の形をつくりたい方
- ・ AI や記録ツールを活用しながら、実践知を育てたい方
- ・ 批評だけでなく、自分でも手を動かして形にしたい方
- ・ 受け身の学びを超えて、実践者として成長したい方
- ・ ICI の活動や思想に継続的に関わりたい方

■ この制度が合わない可能性のある方

以下のような参加スタイルを希望される方には、ICI 実践研究員制度は合わない可能性があります。

- ・ 講義を聞くだけで完結したい方
- ・ 正解やテンプレートを一方的に受け取りたい方
- ・ 自分の問いや実践を持ち寄る意思がない方
- ・ 肩書きや資格的メリットのみを期待される方
- ・ 他者の実践を尊重せず、批評だけを行いたい方
- ・ コミュニティを消費するだけの参加を希望する方

- ・ 継続的な参加や記録作成に関心がない方
 - ・ ICI の理念や対話文化への理解よりも、即時的なメリットのみを重視する方
- ※ 該当する場合、まずはフェローとして無料メルマガを購読し、公開イベント、講座、説明会、コミュニティ参加等から始めていただくことをおすすめします。

11. 応募方法

所定の応募フォームより、以下の内容を記入してお申し込みください。

- ① 氏名
- ② 所属・活動領域
- ③ 連絡先（メールアドレス、携帯電話番号）
- ④ 関心のあるテーマ
- ⑤ これまでの実践・学習・活動経験
- ⑥ いま探究したい問い
- ⑦ 最初の3か月で試してみたいこと
- ⑧ ICI 実践研究員として参加したい理由
- ⑨ 希望する参加区分
- ⑩ ICI の活動にどのように関わりたいか

■ 応募時課題

応募にあたり、以下の内容を 400～800 字程度でご記入ください。

テーマ：「いま自分が探究したい問い」

以下の観点を含めて記述してください。

- ・ その問いは、どのような経験や違和感から生まれたか
- ・ その問いを深めることで、どのような実践や支援につなげたいか
- ・ ICI の場で、どのように探究してみたいか

文章の巧拙や実績の大きさではなく、ご自身の問いを自分の言葉で表現しようとする姿勢を重視します。

■ 参加区分の決定

応募時に希望区分を記入していただきますが、最終的な参加区分は、応募内容、これまでの実践経験、ICI との関わり、今後の活動希望等を踏まえて、ICI 側で確認・相談のうえ決定します。特に、Career Practitioner 以上については、実践経験や ICI への継続的な参加状況を考慮します。

区分は固定的なものではありません。活動実績、実践経験、発信、後進育成への関与等に応じて、必要に応じて見直すことがあります。

■ 選考方法

応募内容を確認のうえ、必要に応じてオンラインカジュアル面談を行います。選考は、優劣を判断するためのものではありません。ICI 実践研究員として参加することが適切か、またはまずはフェロー、公開イベント、コミュニティ参加等から始める方がよいかを、相互に確認するためのプロセスです。

確認する主な観点は以下の通りです。

- ・ ICI の理念や活動趣旨への理解
- ・ 自分なりの問いや関心の有無
- ・ 継続的に参加する意思
- ・ 記録・言語化・発信への姿勢
- ・ 他者との対話に参加する姿勢
- ・ 守秘義務や倫理的配慮への理解
- ・ 希望区分と実際の活動内容との適合性

12. 参加までの流れ

- 1) 募集参加意志の確認：メールなどでご連絡ください。
- 2) 申込み：応募フォームから申込み、及び応募時課題の提出
- 3) オンライン面談
- 4) 参加承認：会員登録を行います。
- 5) 入会、及び年会費の納入
- 6) ICI 実践研究員として活動開始

13. 活動期間

原則として、初年度は最低限 1 年間の参加とします。在籍期間の上限は定めていません。
 諸事情により退所、再入所は何回でも可能ですが、会費の納入は 1 年単位となっています。

14. 更新

ICI 実践研究員の参加は、原則として 1 年ごとの更新制（自動更新）とします。

更新にあたっては、1 年間の活動状況、次年度の活動テーマ、参加区分の見直しの要否を確認させていただき、単なる在籍継続ではなく、ICI の活動にどのように関わっていくかを明らかにした上で更新継続の要否を判断頂きます。

年会費は自動更新のため、退所の場合は、必ず期限前にご連絡ください。

15. 退会・区分変更

退会を希望する場合は、ICI へ申し出てください。

また、活動状況や本人の希望に応じて、参加区分を変更する場合があります。

- ・ 区分は評価や序列ではなく、現在の関わり方と役割を示すものです。ライフステージ、仕事の状況、活動量に応じて、柔軟に見直すことがあります。

16. 守秘義務・倫理的配慮

研究員活動では、実践事例、面談、組織、個人に関わる情報を扱う場合があります。そのため、以下を遵守してください。

- ・ 個人が特定される情報を無断で共有しないこと
- ・ 事例を扱う際は、匿名化・加工・同意取得等に十分配慮すること
- ・ 他者の発言や実践を尊重し、攻撃的・断定的な批評を避けること

- ・研究会・コミュニティ内で共有された情報を、許可なく外部に公開しないこと
- ・支援専門職としての倫理、またはそれに準じる姿勢を大切にすること
- ・AI ツールを利用する場合も、個人情報・機密情報の扱いに十分注意すること

17. コミュニティ参加におけるお願い

ICI 実践研究員は、安心して学び合える場をともにつくるメンバーです。そのため、以下の姿勢を大切にしてください。

- ・他者の未完成な問いを尊重すること
- ・断定や論破ではなく、探究的な対話を心がけること
- ・経験や立場の違いを尊重すること
- ・批評する場合も、建設的な形で行うこと
- ・自分の専門性や経験を、場への貢献として活かすこと
- ・受け身ではなく、自分から問いや気づきを持ち寄ること

ICI は、安心して話せる場であると同時に、互いに成長を促し合う場でありたいと考えています。

18. 禁止事項

以下の行為が確認された場合、参加区分の見直し、活動参加の制限、退会等をお願いする場合があります。

- ・個人情報や機密情報の無断共有
- ・他者への攻撃的・威圧的・差別的な言動
- ・研究会やコミュニティ内の情報の無断転載・外部公開
- ・ICI の名称や肩書きの不適切な利用
- ・営利目的の勧誘、営業行為、宣伝行為
- ・他者の実践や成果物の無断利用
- ・ICI の対話文化や倫理方針を著しく損なう行為
- ・継続的な注意喚起にもかかわらず、改善が見られない行為

19. ICI 名称・肩書きの使用について

ICI 実践研究員としての肩書きや名称の使用については、ICI が認めた範囲で行うものとします。名刺、ロゴ、プロフィール、SNS、Web サイト等で肩書きを使用する場合は、事前に ICI の確認を受けてください。

使用例：

ICI Associate Practitioner / ICI Career Practitioner / ICI Senior Practitioner / ICI 実践研究員 / インテグラルキャリア研究所 実践研究員

※ただし、ICI を代表して発言する場合、ICI 公式見解として発信する場合、外部団体と連携する場合等には、事前確認が必要です。

20. 成果物・発信について

ICI 実践研究員の活動から生まれた記事、レポート、教材、概念整理、研究ノート等は、必要に応じて ICI 内外で共有・発信することがあります。

発信にあたっては、以下を確認します。

- 1) 著作者・協力者の明記
- 2) 個人情報・機密情報の保護
- 3) 事例の匿名化・加工
- 4) ICI としての発信可否
- 5) 個人発信と ICI 公式発信の区別

※ 研究員個人の成果を尊重しつつ、ICI としての知的蓄積にもつなげていきます。

21. よくある質問

Q1. 実践経験が少なくても応募できますか。

はい。Associate Practitioner は、実践を学びながら関わる育成層です。十分な実践経験がなくても、自分の問いを持ち、記録し、対話に参加する意思があれば応募できます。

Q2. 資格がないと応募できませんか。

必ずしも資格は必須ではありません。ただし、キャリア支援・対人支援・組織支援等に関する関心や学習意欲、倫理的配慮は重視します。

Q3. 参加費は区分によって変わりますか。

変わりません。Associate Practitioner 以上の参加費は、一律で年額 30,000 円です。区分の違いは費用ではなく、活動内容・実践経験・責任範囲によって決まります。

Q4. フェローと実践研究員の違いは何ですか。

フェローは無料メルマガ購読者であり、ICI との接点層・関心層です。実践研究員は、Associate Practitioner 以上として、研究会、対話、記録、実践、発信等に継続的に関わるメンバーです。

Q5. 忙しくて毎月参加できるかわかりません。

継続的な関与を重視しますが、毎回の参加を義務とするものではありません。ただし、ICI 実践研究員は単なる登録制度ではないため、可能な範囲で研究会・対話会・記録作成等に関わる姿勢を大切にしてください。

Q6. 研究テーマがまだ明確ではありません。

明確でなくても構いません。「なぜか気になること」「現場で感じている違和感」「もっと深めたい問い」があれば、それを出発点として歓迎します。

Q7. ICI の肩書きを外部で使えますか。

ICI が認めた範囲で使用できます。SNS、プロフィール、名刺、Web サイト等で使用する場合は、事前に ICI へ確認してください。ICI を代表する発言や公式見解としての発信は、別途承認が必要です。

22. 応募にあたってのメッセージ

ICI 実践研究員制度は、完成された人だけのための制度ではありません。大切なのは、すでに立派な研究テーマや実績を持っていることではなく、自分の経験や現場から生まれた問いを、誠実に深めようとする姿勢です。

学ぶだけでは終わらない。語るだけでも終わらない。問いを持ち、試し、記録し、形にしていく。そのような探究を、ともに始めていく仲間を求めています。

ICI は、受け身の参加者ではなく、ともに考え、ともにつくり、ともに育っていく実践研究者との出会いをお待ちしています。

23. お問い合わせ

ICI 実践研究者制度に関心のある方は、インテグラルキャリア研究所までお問い合わせください。自分の問いがまだ十分に整理されていなくても構いません。「何かを学びたい」だけでなく、「何かと一緒に考え、試し、形にしてみたい」という思いのある方の参加をお待ちしています。ICI 実践研究者は、随時エントリーを受け付けています。